

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第8号

令和 2年 2月 11日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 小 泉 斎

【提案日時】

1月 8日 (水)

提案者 推進委員の先生方

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

司会 益満 順也 先生(三ツ沢小)

記録 藤巻 香里 先生(池上小)

【分析】

授業者

細水 大樹先生(稲荷台小)

馬場 将来先生(西富岡小)

小島 早紀先生(山元小)

それぞれの実践の分析を提案した。

【学年のまとめ】

●単元を見通す学習問題

- ・学習計画をどこまでどのように立てるとよいのか見当のする必要がある。
- ・見通しを持たせる中で問いを見出す力を育てていかないといけない。
- ・学習計画を立てることで子ども達が見通しをもって主体的に取り組める。
- ・学習計画の優先順位のつけ方が教師主導になってしまうので難しい。
→優先順位は、自分で調べることと自分ではどうにもならないことが決めるとよい。
- ・市の移り変わりは視点が多いのでどのように考えたらよいのか悩む。
→何かに視点をあてて考えるとよい。
- ・柔軟性の理解としては、教師が許せる方向性をもっていないといけない。
- ・視点にとどまるのか、学習問題を作り上げるのかどちらでも効果がある。

●教師の問い返し

- ・子ども達のイメージが狭いと感じているので広げ深めるための具体的資料が大切
- ・「よい」「悪い」の価値判断はどうなのか
- ・3年生の発達に合ったグラフの見取りや資料の提示で問いを見出せるようにする。
- ・子どもの姿から教師が学ぶことが大切である。
- ・子ども達の資質、興味をしっかりと読み取ったうえで資料や学習計画をたてる。
- ・資料と資料を関連付けていく力が求められる。
- ・3年生という発達では、自分の考えを出しにくいところがあるので、一人ひとりがどう考えているのかを立ち返ることが大切である。

- ・歴史分野では、資料を見て考えられるので合わせてみるのは難しい。一方、社会生活分野では、見ることである程度分かるし、いくつかの視点を合わせて進めていくことができる。いずれにしても、大切なものは何かを考えることが大切である。

【指導講評】

学年担当校長：笠間小校長 黒田 由希子 先生より

- ・社会的事象を教師がどれくらい理解しているか。
- どんなことに意見が揺れて、おかしいなと考えるのかを予想し、意味に迫ることが学習計画である。

学年担当校長：星川小校長 小西 俊光 先生より

- ・単元の計画を修正していくには、学ぶことは何なのかの柱をしっかり持つ
＝学習を調整する力（9年間を見通して身に付ける）

丸山台小校長 新井先生より

- ・年間配列の最後にもってくるとなると今はどうなっているのかの学習がもとになって・いる。子どもを見取る時に単元構想は1つのがかりになる。
めあて→課題→追究の繰り返し
- ・変化が分かりやすいところを3つくらいおさえて比較するとよい。
- ・販売は、最初に決めた課題が学習の終わりまでつながりやすい単元である。
- ・1つ先2つ先の学習が分かるように対話的に学習を進めていく。

文責 村松 秀憲（横浜市立茅ヶ崎小学校）